

京都工芸繊維大学 教授着任講演会

新たに教授に着任した教員が、自身の研究内容及びビジョンを紹介します



日時 令和7年7月7日(月) 10:00～(9:30 開場)
7月9日(水) 13:10～(12:30 開場)
7月25日(金) 13:10～(12:30 開場)

会場 令和7年7月7日(月)・7月9日(水)
京都工芸繊維大学(松ヶ崎キャンパス) 13号館多目的室
令和7年7月25日(金)
京都工芸繊維大学(松ヶ崎キャンパス) 60周年記念館
※最終日のみ開催場所が異なりますので、ご注意ください。

内容 2ページ目以降をご覧ください。

後日オンデマンド動画配信あり

対象 本学学生・本学教職員・産学連携協力会会員企業・京都クオリアフォーラム会員企業

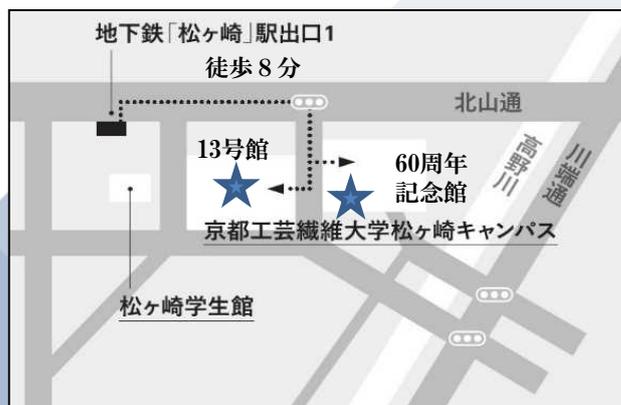
申込方法 下記URLもしくはQRコードよりお申し込みください。
<https://www.kit.ac.jp/application/view/index.php?id=488166>



申込期限

7月7日(月) 開催分: 7月3日(木)
7月9日(水) 開催分: 7月7日(月)
7月25日(金) 開催分: 7月23日(水)

アクセス



キャンパスマップ



問合せ 京都工芸繊維大学 研究推進・産学連携課総務係
〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町1番地
TEL: 075-724-7209 E-mail: ken-senryaku@jim.kit.ac.jp

講演会詳細はWEBでもご確認いただけます! https://research.web.kit.ac.jp/令和7年度_教授着任講演会/



主催: 京都工芸繊維大学 研究戦略推進委員会

京都工芸繊維大学 教授着任講演会

※参加者による講演会の静止画/動画撮影や録画、録音、コンテンツの加工・改変・二次配布等をご遠慮ください。

令和7年7月7日(月) 13号館多目的室

第一部

情報工学・人間科学系 西崎 友規子 教授

10:05～

10:40 「個人差に着目したインタラクションデザインの認知科学的アプローチ」

人とモビリティやエージェント等とのインタラクションに関し、認知心理学を基盤とし、認知科学的視点から個人差に焦点をあてた検討を行っている。自動化が進展する現代において、多様なユーザに対する個別最適化支援に向けた基盤的研究を紹介する。



第二部

デザイン・建築学系 魚谷 繁礼 教授

10:45～

11:20 「京都の都市構造の現況に関する調査研究および建築設計での実践」

歴史都市京都は1200年の間、人々が都市に棲み込むなかで、その構造を変容させつつ生き永らえてきた。その変容の上で、現在の都市の構造はどのような状況にあるのか、そして、現在の京都においてどのような建築をつくっていけばいいのか、調査の研究の成果とあわせて、建築設計での実践についても話したい。



令和7年7月9日(水) 13号館多目的室

第一部

応用生物学系 梅村 舞子 教授

13:15～

13:50 「生物オミクス情報からの新規生物機能の発見」

次世代シークエンシング等の技術革新により、生物の各種包括情報はこの四半世紀に巨り驚異的な速度で蓄積してきた。本講演では、それら複層的な生物情報を有機的に組み合わせて解析・実証し、特にFungi界二次代謝経路について新規知見を見出してきた過程と今後の取り組みを紹介する。



第二部

応用生物学系 佐藤 正晃 教授

13:55～

14:30 「神経科学の知・美・技：イメージングによるマウス高次脳機能の解明」

動物個体における神経細胞の活動を顕微鏡で画像化するイメージングは、複雑な脳機能を理解するのに極めて有効な研究手法です。本講演では、実世界やバーチャルリアリティ環境で行動するマウスの脳活動を可視化する最先端のイメージング技術を用いて学習や社会性の脳内機構を明らかにした研究を紹介します。



京都工芸繊維大学 教授着任講演会

※参加者による講演会の静止画/動画撮影や録画、録音、コンテンツの加工・改変・二次配布等をご遠慮ください。

令和7年7月9日(水) 13号館多目的室

応用生物学系 杉江 淳 教授

14:35~

15:10 「ショウジョウバエから見つける、疾患の原因と治療への道筋」

遺伝学的操作が簡便なノックアウトを用い、神経変性や遺伝性疾患のモデル構築を通じて、診断支援技術の開発や病因解明、創薬シーズの探索を進めています。内在性アミロイドの機能、自然免疫経路、酸化ストレス応答といった細胞内ストレス応答の解析を通じて、疾患に関与する可能性のある新規分子経路の同定にも取り組んでいます。



電気電子工学系 高橋 和生 教授

15:15 ~ 「プラズマ (ラジカル) で拓くサステナブル科学

15:50

“人が地球に融合するために”

持続可能な環境の取得は、省エネルギー化の追求から始まる。消費電力の低減、環境に調和したエネルギー源の開拓のために、これまでの研究、プラズマ物理、プラズマ化学、プラズマ応用に基づいて、プラズマのラジカルが拓く可能性を広げる。人が地球でより長く暮らすための技術を再構成し、根底の学理、サステナブル科学を築く。



電気電子工学系 西中 浩之 教授

15:55~ 「ミストを用いた半導体製造装置の開発」

16:30

身近に利用できるミスト発生器を用いた半導体製造装置の開発を行っている。このミストを用いて半導体を低コストで形成することを目標に、様々な装置や半導体材料の研究を進めている。そのミストを用いた半導体製造装置の紹介や、この装置を用いて形成した半導体材料などの形成例について紹介する。



電気電子工学系 三瓶 明希夫 教授

16:35~

17:10 「プラズマによるカーボンニュートラル社会の実現への貢献」

地球温暖化抑制のため、地球環境と調和しながらも資源制約から解放されたカーボンニュートラル社会実現のための具体化が進みつつある。本講演では、プラズマを利用してエネルギー問題および地球温暖化の解決を図り、カーボンニュートラル社会の実現に貢献する研究を紹介する。



繊維学系 山田 和志 教授

17:15~

17:50 「持続可能な未来を創る高分子材料科学：私のこれまでとこれから」

高分子や繊維を基盤とした機能性材料の開発と評価を通じて、持続可能な社会の実現に向けた研究に取り組んできた。本講演では、これまでの研究の歩みを振り返るとともに、ナノ材料の設計から材料の劣化評価に至るまで、次世代の環境調和型材料の開発に向けた展望について紹介する。



第三部

第四部

第五部

第六部

第七部

京都工芸繊維大学 教授着任講演会

※参加者による講演会の静止画/動画撮影や録画、録音、コンテンツの加工・改変・二次配布等をご遠慮ください。

令和7年7月25日(金)

60周年記念館

※最終日のみ開催場所が異なります

分子化学系 熊田 陽一 教授

第一部

13:15～ 「単鎖抗体の構造理解と次世代免疫検査プラットフォームの構築」
13:50

ウサギ単鎖抗体を中心に、抗体可変部の構造を詳細に解析するとともに、単鎖抗体のスクリーニング技術、分子改変技術、大量生産技術、高密度固定化技術を開発した。さらに、これらを組み合わせることで安価かつ高感度な免疫検査の汎用プラットフォームを構築した。



分子化学系 山田 重之 教授

第二部

13:55～ 「適切な分子設計に基づく機能分子材料の開拓」
14:30

原子や原子団の立体的・電子的特性は多様であり、その適切な設計によって望みの機能分子材料の開発が達成される。本講演では、これまで注力してきた含フッ素有機分子の合成とフッ素系機能材料の開発に関する研究成果と今後の研究ビジョンを紹介する。



基盤科学系 牛込 恵美 教授

第三部

14:35～ 「糖尿病重症化予防を目指した家庭血圧マネジメント」
15:10

糖尿病患者において、糖尿病合併症の進行予防のために、血糖マネジメントとともに血圧、特に家庭血圧マネジメントが非常に重要です。2008年に糖尿病を有する人に特化した多施設縦断家庭血圧コホート研究を立ち上げました。約1800症例のコホートデータを集積、50報の有用な新知見を報告しましたので主要な知見について報告いたします。



基盤科学系 藤田 尚志 教授

第四部

15:15～ 「ベルクソンにおける植物の哲学
15:50 ～拡張ベルクソン主義の展開可能性～」

近年、ベルクソン哲学を現代の認知科学や分析哲学と接合する「拡張ベルクソン主義」と呼ばれる動きが加速している。本講演ではその潮流を概観し、一例として、MTS（マルチタイムスケール）理論に基づいた「植物の哲学」を展開できるのではないかというアイデアを提示する。



基盤科学系 吉川 順子 教授

第五部

15:55～ 「いけ花に着目したジャポニスム研究の新分野開拓」
16:30

ジャポニスムは19世紀後半から20世紀初頭の欧米諸国で日本文化の影響を受けて展開された芸術運動である。本講演では、その更なる広がりを見せるフローラルアートにおけるジャポニスムについて、いけ花という日本独自の文化に寄せられてきた関心や、伝書というアイテムが果たした役割、現存しない作品の調査の展望を紹介する。

